

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2000 年 Engage Video

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 特集レポート

### EngageVideo - 多地点接続会議サービスの未来形！？

テレビ会議多地点接続サービスを利用する際に事前の予約はつきもので、最悪の場合、1日～2日前までに予約をしないとサービスが利用できないことがある。特にスピードがものを言うビジネスの世界でこのようなサービスを利用することは、場合によって命取りとなりえる。

つまり、今この瞬間に決定しなければならないビジネスの決定を、明日、明後日へと先延ばしにはできない。今決定しなければならないことは、今行わなければならない。今必要なビジネステレビ会議は今行えなければ、意味がない。こういったビジネスの本質的なニーズを完璧に満たしたテレビ会議多地点接続サービスは日本ではもとより海外でもあまり聞いたことがない。

だが、先月、アメリカのテレビ会議（音声）多地点接続サービスを提供する Video-on 社が、画期的なサービスを開始した。それは、EngageVideo と呼ばれるもので、一言で言えば、予約なしでテレビ会議多地点接続サービスが利用できる代物だ。テレビ会議多地点接続サービスは通常、事前にそのサービスを提供する会社へ予約をすることにより、予約日時に利用することができるが、この EngageVideo は、テレビ会議端末とインターネットに接続ができる PC 端末があれば、思った時にすぐサービスが利用できるという優れたもの。

利用については、まず、Site Certification とよばれる事前のテレビ会議端末の試験接続および端末登録を行う必

要がある。間違いなく Video-on 社の MCU と接続ができるか確認する。接続が確認できないと Video-on 社としてもサービスを提供できないからだ。私も先日 EngageVideo のデモをやらしてもらったが、同社の営業担当から、まず試験接続確認をおこなわなければならないと連絡をうけていたので、接続試験をおこなった。接続試験は30分程度で終わった。本当は10分程度で終わるところが、私が、Video-on 社のサービスについて、またアメリカの市場についていろいろと質問したため長引いてしまった。Site Certification が終わると、営業担当よりデモの日程調整のメールが届き、3月31日（金）日本時間午前7時50分からと決定した。

当日の朝がきた。いよいよこの目で EngageVideo をみる日がきた。予約なしのサービスとは一体どのような感じであろうかと、事前に Video-on 社からのニュースリリースを読んではいったが、興奮していた。その開始時間7時50分を待っていたら、同社の担当からこれから始めるとの電話があり、テレビ会議端末の電源をオンにし、インターネットが接続できる PC の準備をした。

当日のデモは、テレビ会議端末とインターネットに接続している PC と通常の電話（説明用）をつかって行われた。テレビ会議端末と PC 端末が別の部屋にあったので、（私の方の環境が悪いのだが）ちょっと間が抜けた感じが少ししたが、それを埋めてあまりあるくらいの感動を私は久しぶりに感じた。

EngageVideo の簡単なしくみはこうだ。まず、事前に利用する予定の端末等の情報を登録しておく必要があるが、それがすんでいれば、あとは、テレビ会議を開きたいときに、Video-on 社指定のホームページに接続し、そこから事前に与えられたユーザーID とパスワードを入力すると、各種の設

定画面がでてくる。そこで、事前に登録していた端末(対地)のリストが表示されるので、会議を行う対地を選択し、画面左側にある“Engage”ボタンを押すと、自動的に選択された対地に Video-on の MCU からダイヤルアウトされる。ボタンを押してからダイヤルアウトで、端末が着信ベルを鳴動させるまでにかかった時間はほとんど感覚的に1~2秒程度。非常にストレスを感じなかった。このサービスだと、会議を思い立ってからわずか数分で接続が完了してしまう。これこそビジネスユーザーが求めていたサービスではないだろうか。

しかも、接続端末は、ISDN で動作する H.320 はもとより、H.323、通常の電話(衛星接続や H.324 は不可)などの混在環境下での多地点接続サービスなので、さまざまなユーザー利用環境に対応している。H.320 接続も単に日本では非常に一般化している

128kbps (BRI) 接続はもとより、64kもしかり384k以上の高速接続にも対応しているため、高品位なテレビ会議接続も可能だ。この混在した接続環境での利用はもとより、接続操作も非常に簡単だ。会議に参加する対地を選び、“Engage”のボタンを押すだけで会議接続がなされるというのは、会議に集中したいビジネスユーザーにとって厄介な操作を覚える必要がない。簡単な操作と素早い会議開始に対するユーザーニーズに対してすばらしいサービスを提供しているのがこの EngageVideo ではないだろうか。

他社の既存サービス提供の形態から考えれば、革新性は非常に高い。他社との差別化を図る上で、大きな切り札になるのではないかと私はデモを見ながら直感的に感じた。

インターネット経由で EngageVideo の制御画面を表示した PC のモニターは、非常にインターフェースに優れわかりやすい。この制御画面というのは、通常サービス会社のオペレーター担当が利用する画面で、この EngageVideo ではオペレーターが通常行うところの各種設定をサービスのユ

ーザーが直接行うことができるということである。今までは会議途中で、強制音声ミュートだ映像ミュートだといったことは、サービス会社のオペレーター担当 (Conference Producer) へいちいち電話等で連絡して設定の変更等をおこなっていたが、この EngageVideo によりその面倒な連絡作業がなくなり、ユーザーが思うままに自分の会議の制御を行うことができる。インターフェース関係は今後もより使いやすいものに更改していくとの話であったが、今でも十分にわかりやすく、操作のしやすい設定画面である。たとえば、現在接続している対地が一覧表で設定画面上に表示されるが、接続状況も動画的な表現で、それぞれの端末が接続している途中なのか、接続中なのか、切れているのか一目でわかる。また、音声ミュートや映像ミュートも絵的な表現で表されていて、それらのアイコンをクリックする操作だけで簡単にある特定の対地のミュート設定、接続・切断、等ができる。

また、機能はそれだけではなく、話しているところの対地が表示される単画面表示だけでなく、2分割多画面、4分割多画面、1+5分割画面などさまざまな映像表示ニーズに対して、それぞれのアイコンをクリックするだけで簡単に2分割から4分割へあるいは単画面へと思った時にすぐ自分でコントロールできる。こういった PC 上での操作については、PC がデモで利用したテレビ会議端末とは別のところにある端末であったからという理由であろうか、電話で Video-on 社と接続し担当の方から説明を受けたが、「まさしくあなた自身が、Conference Producer だ。」といったその担当の方の言葉におもわず納得した。

気が付いたら、時間は午前9時を過ぎている。すでにデモが始まって1時間半を経過した。いろいろとサービスの内容を聞いたり、実際に私自身が、PC 端末から制御画面を操作したりしていたら、あっという間にそんなに時間が経ってしまった。こんなに充実したサービスをみたのは久しくない。デモを見てみて利用してみたいと思ったのは、多分私だけではないだろう。日本からでも利用はできないことはないが、国際通信

料金もかかるため非常にコストがかかる。私としては、日本国内にオペレーションセンターでも開設してもらえれば、国際通信料金も考える必要がないので是非利用したい。

Video-on 社が日本でもサービスを開始していただける日はこないものだろうか。

同社としては、これから海外進出をどんどん行っていくようであるが、アジアの拠点は日本ではなく香港のようである。日本のテレビ会議多地点接続の市場は、およそ7~9億円程度。20社程度がひしめき合うアメリカの市場に比べれば、4社程度が競争をしている小さな日本市場では、あまり魅力がないのだろうか。

ただ、同社デモ担当の方の説明を聞いているとその EngageVideo に対する熱意をひしひしと感ずることができる。Video-on 社にとって大変な自信作じゃないだろうか。

Video-on 社は多地点接続サービスのデファクトスタンダードを確立したのではないだろうか。今後は、予約なし、早い接続、簡単操作、フレンドリーなインターフェースをもった会議コントロールなどがキーワードを具現化したサービスが市場を先導するのではないかと思う。

EngageVideo は、この市場の動きに先鞭をつけた。